

漁獲情報収集管理事業

福田将数

1. 目的

本県周辺漁業資源の適切な管理を行うため、関係各漁協の協力により毎月、セリデータを収集し、漁獲統計を整備する。

2. 新漁獲統計システムの導入

ア. データベーステーブルの統合

平成 15 年までの統計データは、データ量の多い県漁連を除き各漁協をまとめた年別のテーブルで構成される「8998. mdb」, 「99. mdb」, 「2000. mdb」, 「2001. mdb」, 「2002. mdb」, 「2003. mdb」, の 6 つと、「県漁連 8999. mdb」, 「県漁連 2000. mdb」, 「県漁連 2001. mdb」, 「県漁連 2002. mdb」, 「県漁連 2003. mdb」の 5 つの合計 11 のデータベースで構成されていた。統計データ量が大きく、MS - ACCESS2000 では、集計に多くの時間を要していた。そこで、新システムでは、それらを 1 つのデータベーステーブルに統合した。

イ. 標準化・データベース化の同時並行化

各漁協からのデータの入手は従来どおりである¹⁾。新システム（図 1）では、各漁協からのセリデータに含まれる魚種コード・漁法コードを基に県統一魚種コード・漁法コードが付加された標準化ファイルが作成される。新たな魚種コード・漁法コードが出現した場合は、県統一コードと対応させ、再度、標準化ファイルを作成する。この作業は従来システムでも同様であったが、標準化とデータベース化が同時並行で行われるため、作業が簡略化された。

ウ. その他の付加機能

従来システムでは、1989～2003 年までの間で 11 あったデータベーステーブルが新システムでは 1 つのデータベーステーブルに統合されたため、例えば漁協別魚種別年別漁獲量の集計は従来では年毎のテーブルに対して繰り返してきたもの

が、一度の操作で集計可能となり、集計作業及び時間が大幅に簡略・短縮化された。また、毎月、ルーチンに集計していた作業（旬別魚種別漁獲量、漁法別魚種別漁獲量等）は、出力フォームを指定するだけで対応プログラムが実行され、Excel のシートで出力される。その他、必要なデータの抽出には、汎用統計ソフト DataNature を用いてデータベースから抽出できる。

新システムに移行し、これら標準化～データベース化～データ集計（月報作成等）の作業手順が簡略化されたことで、本作業の効率化が図れた。

文献

1) 加藤美奈子. 漁獲情報収集管理事業. 平成 14 年度沖縄県水産試験場事業報告書, 2004 ; 61 - 64.

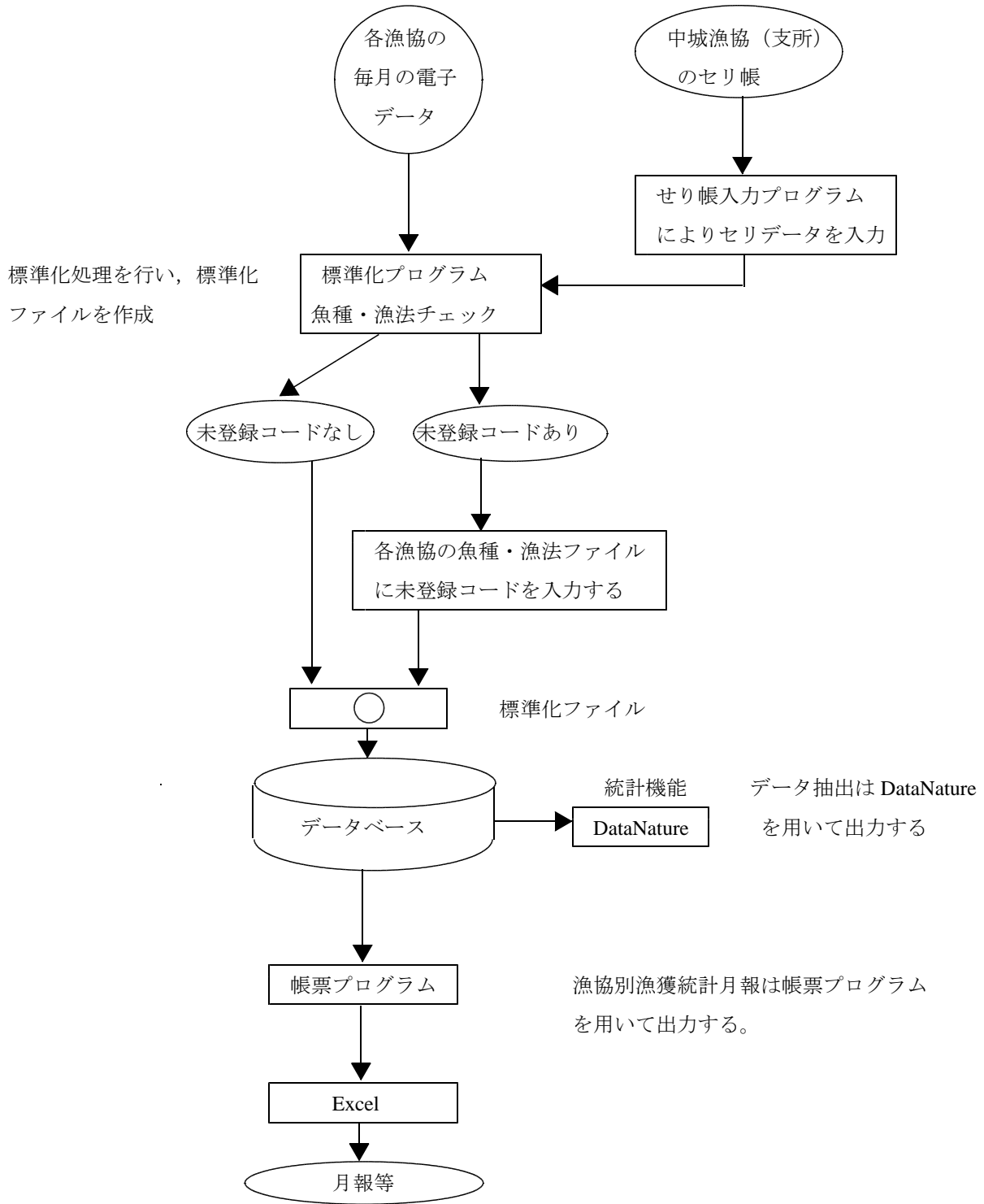


図 1. 沖縄県水産試験場漁獲統計システム概要